

適切な筋弛緩モニタリングのためのハンズオンセミナー

日 時：11月21日(木) 15:30～18:30

会 場：ハンズオン会場1(京王プラザホテル 本館43F スターライト)

責任者：鈴木 孝浩(日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野)

オブザーバー：中塚 秀輝(川崎医科大学総合医療センター麻酔・集中治療科)

インストラクター：

高木 俊一(日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野)

岩崎 肇(旭川医科大学麻酔・蘇生学講座)

藤本 昌史(熊本大学大学院生命科学研究部麻酔科学)

羽間 恵太(広島大学麻酔科手術部)

セミナー概要

筋弛緩薬は安全な気道確保、術野環境の向上化に貢献していますが、その投与法、管理法によっては、術後残存筋弛緩に起因する上気道閉塞や肺炎、無気肺などの危機的合併症に繋がってしまいます。日本麻酔科学会は安全な麻酔のためのモニター指針の中で、筋弛緩薬や拮抗薬を投与する際の筋弛緩状態のモニタリングを推奨しています。同様に筋弛緩薬使用に関する診療ガイドラインがAmerican Society of Anesthesiologists (ASA)とEuropean Society of Anaesthesiology and Intensive Care (ESAIC)から2023年にそれぞれ発表されましたが、どちらも患者安全上、最重要である術後残存筋弛緩の回避に重きを置いて、そのための客観的モニタリングが推奨されています。現在、喜ばしいことに本邦で使用できる四連反応比を測定できる客観的筋弛緩モニターは多機種に渡っています。ただし各機種の正確な使用法の情報提供の場や、各施設に合った機種を選定する機会はないのでは？今回のセミナーでは、AF-101P/201P(電位感知型/加速度感知型：日本光電工業株式会社)、テトラグラフFTG2001(電位感知型：フクダ電子株式会社)、ToFscan(3D加速度感知型：センチュリーメディカル株式会社)、TwitchViewモニター(電位感知型：平和物産株式会社)、STIMPOD NMS450(電位感知型/加速度感知型 一体型：泉工医科工業株式会社)、TOF-cuff(カフ圧感知型：アイ・エム・アイ株式会社)全機種の操作説明の受講とハンズオンが可能です。本セミナーに参加して、客観的筋弛緩モニタリングをマスターしましょう！

申 込：事前登録制

定 員：30名

受講料：無料